

第2部

共創活動を支えるキャンパス・施設整備の事例集

1. 概要

(1) 収集事例について

- 今般の調査研究の実施に際し、**共創活動を支える拠点の整備に取り組んでいる国公私立大学等の事例を収集**した。収集した事例は 46 事例であり、**これらの事例は、「イノベーション・コモンズ」という考え方が示される前に計画・整備されたもの**であるが、各事例ともに、**大学等のキャンパス内において、教職員や学生、企業や地方公共団体等の様々なステークホルダー等との共創活動が展開されている（又は展開を期待している）場・空間が整備・活用されている事例**であり、今後各大学等が「イノベーション・コモンズ」の実現に向けて取り組むに際して、参考となる視点を含んでいる事例として収集したものである。
- 「共創活動を支えるキャンパス・施設整備」の目的は様々であるが、収集した 46 事例において、主にどのような目的をもって共創活動を捉え、そのための空間を整備しているのかを整理した上で、事例のポイントも付記したものを、表 2 に一覧として整理した。
- 事例 no.1～11 については、「イノベーション・コモンズ」の実現に向けた検討を進める上で参考となる事例として、本協力者会議の委員と現地調査を行う等して整理したものであり、取組の概要を次節でまとめるとともに、各事例の詳細は、第 2 章に示す。
- 事例 no.12～46 については、キャンパス内等で共創活動が展開されており、それを支える場・空間を計画・整備している事例（共創活動に着目し、そのための場・空間を取り上げたもの）として、各大学等からの情報を元に整理した事例であり、各事例の詳細は、第 2 章に示す。
- なお、繰り返しとなるが、**各大学等の特色や強みはそれぞれ異なるため、以下はあくまで参考となる視点を含んでいる事例であり、事例をそのまま取り込めば、「イノベーション・コモンズ」ができる、というものではないことに十分留意する必要**がある。
各大学等の掲げるビジョン等に基づき、関係者が主体的な検討を行い、協働的な対話を重ねるとともに、キャンパス全体に交流・対話し「共創」を行う場を整備することで、特色・魅力ある「イノベーション・コモンズ」を実現していくことが期待される。

(表2) 共創活動を支えるキャンパス・施設整備の事例一覧 (1/2)

番号	機関名	キャンパス・拠点の名称	最先端研究	地域産業振興等への貢献		人材育成			社会課題の解決			事例のポイント
			最先端	地元企業	スタートアップ	まちづくり人材	教育	地域交流	実証・カーボン	防災	健康・地域医療	
「イノベーション・コモンズ」の実現に向けた検討を進める上で参考となる事例として重点的に調査したもの												
国立大学法人等												
1	東北大学	青葉山キャンパス	○	○	○		○		○	○		産学官金が連携したサイエンスパーク型研究開発拠点づくり、企業との共同研究・開発、ベンチャー企業設立
2	千葉大学	墨田サテライトキャンパス		○		○		○				まちと一体となったキャンパスづくり、公民学連携、地域課題の解決
3	信州大学	上田キャンパス		○			○					広域配置型キャンパスの利点を生かした地域連携の共創拠点、産学官連携、地域振興
4	名古屋大学	東山キャンパス	○					○		○		既存施設を含めたキャンパス全体の共創拠点化、地域防災、入居者の空間計画への参画
5	滋賀大学	彦根キャンパス			○		○					企業等と連携したデータサイエンス教育研究拠点、学外ラボ、既存施設の有効活用
6	大阪大学	箕面キャンパス	○						○			まちと一体となったキャンパスづくり、地方公共団体と施設の共同運営、海外交流
7	広島大学	東広島キャンパス						○	○			キャンパス全体を実証実験の場として整備、産学連携、カーボンニュートラル
8	九州大学	伊都キャンパス	○						○			キャンパス全体を実証実験の場として整備、産学連携、学術研究都市
9	九州工業大学	戸畑キャンパス			○			○				産学官の共創活動の拠点となるコワーキングスペースの整備、多様な居場所と活動が生まれる空間づくり、ソフト面を含む検討体制の構築
私立大学												
10	共愛学園前橋国際大学	小屋原キャンパス					○	○				「地学一体」による人材育成のためのキャンパスづくり、既存施設の有効活用、活動が見える空間づくり
11	立命館大学	大塚いばらきキャンパス		○				○		○		地域・社会に開かれたキャンパスづくり、都市との共創、防災公園
キャンパス内の共創活動を支える場・空間を計画・整備している事例												
国立大学法人等												
12	室蘭工業大学	カフェ TENTO			○		○	○				地域課題解決のための学習・交流の場としてのカフェ、学生・地域住民・企業等の交流の場、地域開放
13	弘前大学	健康未来イノベーションセンター	○					○		○		多様な主体による健康研究および健康増進活動のオープンイノベーション・プラットフォームを構築、健康ビッグデータの活用、地域住民の健康増進
14	岩手大学	三陸水産研究センター等		○				○				産学官金連携のプラットフォーム設立、地元企業と連携した研究開発、地域の水産人材育成へ貢献
15	筑波大学	筑波大学附属病院						○				県内の医療機関に大学附属病院の教員を配置し地域医療体制に貢献、医療人材の確保・育成
16	宇都宮大学	ロボティクス・農工技術研究所		○	○			○				異分野融合による社会実装実験の拠点、施設やキャンパスを活用した実証実験、オープンスペース
17	千葉大学	アカデミック・リンク・センター						○				専門的人材育成のための教育関係共同利用拠点、多様な学習環境、学習サポート体制
18	東京大学・千葉大学	柏の葉アーバンデザインセンター (UDCK)		○	○	○		○	○			大学とまちが融和した新たなまちづくりを目指す拠点、公民学連携、新産業創造拠点
19	東京大学	情報基盤センター	○									共同機関間でデータ活用のコミュニティを形成、利用者の交流の場、段階的なセキュリティ
20	東京学芸大学	教育インキュベーションセンター、HIVE						○	○			学生・企業・地域住民等が「出会い」「刺激し合う」ための共創空間、産官学民連携、イノベーションのためのシンボリックな場
21	東京学芸大学	東京学芸大学附属小金井中学校グラウンド		○				○	○			スポーツを通じた教育指導研究・地域貢献活動、スポーツ団体とのグラウンドの共同利用、地域開放
22	東京工業大学	田町キャンパス	○		○			○				国際的な産学官連携の拠点、データネットワークの活用、環境やまちづくりに配慮した設計
23	金沢大学	バイオマス・グリーンイノベーションセンター	○							○		産学官連携によるグリーンイノベーションを目指す研究拠点、オープンイノベーションの創出、交流を促進する空間構成

(表2) 共創活動を支えるキャンパス・施設整備の事例一覧(2/2)

番号	機関名	キャンパス・拠点の名称	最先端研究	地域産業振興等への貢献			人材育成			社会課題の解決			事例のポイント
			最先端	地元企業	スタートアップ	まちづくり人材	教育	地域交流	実証・カーボン	防災	健康・地域医療		
24	浜松医科大学	iMEC棟等		○	○							○	医工連携活動を推進する拠点、医療・介護現場の課題コースの解決
25	愛知教育大学	次世代教育イノベーション棟等					○	○					多目的に利用できる次世代教育施設、教育コンテンツ開発、フレキシブルな大空間
26	鳥取大学	とっとり創業実証センター等	○									○	産学連携による次世代医薬イノベーション拠点、地域人材の育成、オープンラボ
27	山口大学	志イノベーション道場			○		○						学生と起業家等との接点をつくりアイデアを創造・実践する拠点、課題解決力の育成、デジタル工房
28	香川大学	イノベーションデザイン研究所		○						○			組織対組織の研究連携を推進するプラットフォーム、活動成果の展示、DXの活用
29	熊本大学	ましきラボ						○		○			熊本地震からの創造的復興を支援するまちづくり拠点、住民・行政との持続可能なコミュニティを創出・支援する場
30	函館工業高等専門学校	G棟		○	○		○						地域社会・市民・企業家のための共創の場、地域リカレント教育
31	鶴岡工業高等専門学校	1号館学習・交流ラウンジ					○	○					学生が多目的に使用できる学習・交流ラウンジ、アクティブラーニング、海外協定校とのオンライン交流
32	奈良工業高等専門学校	DXものづくり教育環境整備					○	○					デジタルものづくり教育環境、サイバー空間で企業・他高専との共創、デジタルツイン人材の育成
33	米子工業高等専門学校	旧ボイラー室					○	○		○			防災・減災教育の実施など多様な活動を支える拠点、学生によるラーニング commons の整備計画、海外交流
34	高エネルギー加速器研究機構	クライオ電顕実験棟	○				○	○				○	産学連携による創薬研究拠点、オープンラボとICT設備の活用、地域住民への研究内容の展示
公立大学													
35	公立はこだて未来大学	本部棟				○						○	学習を通じた開放的なコミュニケーションのための環境づくり、医工連携による地域の医療・人材育成等、活動を可視化するオープンスペース
36	会津大学	会津大学先端ICTラボ等		○			○						ICTを活用した産学連携推進、地方公共団体との連携、ICT人材の育成
37	横浜市立大学	みなとみらいキャンパス (NANA Lv.)		○	○	○	○	○		○		○	民間企業と連携した産学連携イノベーション拠点、地域企業の窓口としての交流の場、スタートアップ企業との共同研究
38	長野県立大学	三輪キャンパス、後町キャンパス		○	○		○	○	○				地域と連携する実践的な学習・研究の場としてのキャンパスづくり、地域に貢献するリーダーの育成、多様な commons ペース、再エネ100%電力調達
39	北九州産業学術推進機構	北九州学術研究都市		○			○	○					アジアに開かれた学術研究拠点、多様な主体間の共創、地域の高度人材の育成
私立大学													
40	慶應義塾大学	鶴岡タウンキャンパス、鶴岡サイエンスパーク	○		○		○						地方公共団体との連携によるキャンパスづくり、産学官連携による研究拠点、地域振興への貢献
41	立正大学	150周年記念館					○	○					大学と地域・社会を繋ぐゲートウェイ commons としてのキャンパスづくり
42	神奈川大学	みなとみらいキャンパス		○	○			○					地域・社会に開かれた拠点、ステークホルダーとの連携の総合窓口、リカレント教育
43	金沢工業大学	チャレンジラボ					○			○			共創教育のための拠点、クラスター研究室と産学連携、ものづくり環境
44	熊本学園大学	14号館 (60周年記念会館)					○				○		市との連携によるインクルーシブな避難所の運営、避難所運営の検証、防災教育
その他													
45	渋谷スクランブルスクエア	SHIBUYA QWS			○	○		○					交流や領域横断の取組のための共創施設、多様な主体、渋谷駅近郊のアクセス
46	グランフロント大阪	ナレッジキャピタル		○	○		○	○					大阪駅直結の知的創造活動の拠点、多様な主体間の共創、交流を促す専任スタッフ

(2) 主な取組事例の概要 (事例一覧 no.1~11)

- 共創を支えるキャンパス・施設の整備に先進的に取り組んでいる国公立大学等のうち、主な事例について、経緯やビジョン、キャンパス計画や施設上の工夫、共創活動の成果・効果とそのため
の要点と考えられる点を調査した。各大学とも、それぞれの特色や強みを活かして幅広い共創活動
を展開しているが、ここでは共創活動の目的に沿う部分に関してのみ概要を記載している。

サイエンスパーク型研究開発拠点を中心としたキャンパスづくり

- 目的 … 産学官の「共創」による最先端イノベーション創出に資する共創拠点。グローバル化や DX の進展への対応、持続可能なグリーン未来社会の構築に向けて、キャンパス全体が有機的に連携した「共創」の拠点。
- 主な共創活動の施設等 … 国際集積エレクトロニクス研究開発センター／マテリアル・イノベーション・センター（MIC）／次世代放射光施設（建設中）
- 事業費負担 … 大学の自己負担、その他補助金
- 共創活動の場 … 「サイエンスパーク型研究開発拠点」を整備
- 主な成果・効果 … 多様な学生・研究者との「共創」、地域・産業界との「共創」を促進するハブとして、資金と人材が循環する自律的経営基盤を構築。

■ 概要

産学官が集う社会課題解決型キャンパスとして整備する青葉山新キャンパスにおいて、共創の場として「サイエンスパーク型研究開発拠点」の整備を進めている。ここでは、「東北大学ビジョン 2030」に基づき、社会のグローバル化やデジタルトランスフォーメーションへの対応、持続可能でレジリエントなグリーン未来社会の構築に向けて、キャンパス全体が有機的に連携した共創拠点の構築を目指している。現在、国際集積エレクトロニクス研究開発センターや、マテリアル・イノベーション・センターを拠点に産学共同研究や地域連携が行われており、今後は「官民地域パートナーシップ」により建設中の次世代放射光施設等をあわせて、新技術と新産業分野の創出を目指し、産業界との共同研究をはじめとする産学共創と課題解決型研究を推進していく。



交流ラウンジ（MIC）

スタートアップ企業の交流スペース
（青葉山ガレージ、MIC）

② 千葉大学 墨田サテライトキャンパス

主なステークホルダー 墨田区、地元企業、UDC すみだ、学校法人電子学園

公的資源を活かし再生する「まちと一体となったキャンパスづくり」

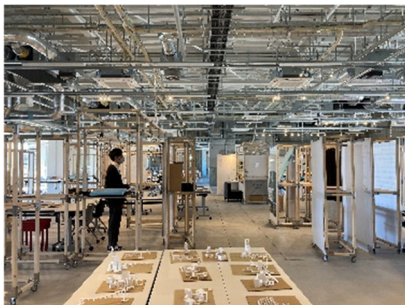
- 目的 … 地域活性化・地域の産業振興に資する共創拠点
- 主な共創活動の施設等 … コモンスタジオ、インタラクティブ・スタジオ、イノベーション・アトリエ、地域連携スペース 等
- 事業費負担 … 施設整備費：約 29 億円（墨田区の負担）、維持管理費：80 百万円/年（大学の負担）
- 検討体制 … キャンパス整備企画室（担当理事直轄）
- 運営体制 … デザイン・リサーチ・インスティテュート、公民学連携組織（UDC すみだ）
- 共創活動の場 … ラーニングスペースに可動間仕切りやキャスター付家具の設置、大学と共同研究を行う企業の拠点をキャンパス内に設置
- 主な成果・効果 … 企業との共同研究や技術開発を活発に行うとともに、キャンパスを拠点として地域課題解決に向けた取組が行われ、地域産業振興・活性化に貢献

■ 概要

墨田区と平成 29 年に包括的連携協定を締結し “街と一体となったキャンパスをつくる” という構想のもと、令和 3 年 4 月に墨田区にサテライトキャンパスを開設した。

墨田区が旧すみだ中小企業センターを改修し、その施設を千葉大学が借用する形で、分野横断的デザイン教育研究を展開する環境を整備した。墨田区は大小さまざまな製造業の工場が集積する「ものづくりの街」であり、本施設を活用した地元企業等との共同研究・開発、活動内容に応じて自在にアレンジできる家具等の技術開発や生活に密着した分野の研究支援等、地域産業振興・活性化の拠点としての発展を目指している。

地域開放スペースを墨田区の新型コロナワクチン接種会場としても使用している。接種会場内の誘導サインを墨田区と共同作成するなど、地方公共団体のワクチン接種業務の円滑化に寄与し、地域貢献を果たしている。



コモンスタジオ



地域と大学の交流広場として、キャンパスコモンの整備を計画中

③ 信州大学 上田キャンパス

主なステークホルダー 長野県等地方公共団体、地元企業、研究連携企業 等

広域配置型キャンパスの利点を生かした地域連携の共創拠点

- 目的 … 研究力の強化、産学官連携の推進、社会連携の強化拡張。知の創造をつむぐサイエンスプラットフォームの構築。
- 主な共創活動の施設等 … ①AREC(浅間リサーチエクステンションセンター)、②Fii(ファイバーイノベーションインキュベーター施設)、③OVIC(オープンベンチャー・イノベーションセンター)
- 事業費負担 … ①上田市が整備、②経産省補助金、大学の自己資金、③地域科学技術実証拠点整備事業
- 検討体制 … ①上田市と共同で経済産業省等と協議、②繊維学部教員会議等、③繊維学部および SUIRLO (学術研究・産学官連携推進機構) との協働体制
- 運営体制 … SUIRLO、繊維学部、上田市等からなる運営委員会
- 共創活動の場 … オープンでフレキシブルな空間、実験機器等の設置・貸出
- 主な成果・効果 … 地方公共団体と企業と大学が密接に連携し、長野県全域の産業を活性化。信州大学と地元企業との共同研究により、地域の産業振興に貢献。

■ 概要

地方大学の利点を活かし、大学の高度な教育研究活動を通じて、産業活性化や人材育成、自然環境保全など、国公立大学、地域企業や行政と密接に連携しながら多方面で地域に貢献している。繊維学部がある上田キャンパスでは、信州大学と上田市、民間企業とが連携して「上田地域産学官連携推進協議会」を平成 12 年に設立、平成 14 年には AREC の前身である「上田市産学官連携支援施設」を上田市が建設し、国立大学内での産学官連携支援施設が全国に先駆けて開設された。現在は、AREC 以外にも OVIC など 4 カ所の産学官連携拠点が、地元企業や行政との共創拠点として、地域中小企業に対して、技術や商品の開発等の新たな産業の創出や人材、技術者の育成支援等、地域創成の取組を推進している。



研究等展示スペース、オープンスペース (OVIC)



多目的ルーム (OVIC)

④ 名古屋大学 東山キャンパス

主なステークホルダー 大学、国立研究開発法人、企業等

既存のキャンパス全体をソフト・ハードが一体となったcommons（共創拠点）へ転換

- 目的 … 産学官の「共創」による最先端イノベーション創出に資する共創拠点。学内や地域・産業界との共創を促す空間を整備、各キャンパスとデジタル技術を用い有機的に連携。
- 主な共創活動の施設等 … C-TECs、C-TEFs
- 事業費負担 … 施設整備費補助金、地域産学官連携科学技術振興拠点施設整備費補助金他
- 検討体制 … 学術研究・産学官連携推進本部長をリーダーに関係部局が参画するGaN 研究戦略室を設置し全学的に運営
- 共創活動の場 … 全ての研究施設をオープン空間に集約しフリーアドレス方式を採用、GaN の実験に特化した大空間クリーンルームを設置
- 主な成果・効果 … アンダーワンルーフ型の研究施設を拠点として研究を進めることにより、異分野研究者・産学間での交流・議論が活性化し、新しい学際領域の最先端イノベーションの創出に貢献

■ 概要

キャンパスマスタープランを基にした、社会と大学の双方向コミュニケーションのための共創空間やパブリックスペースの整備等、地域交流・産学連携の拠点となるキャンパスの実現を目指す。産学官共創による最先端省エネルギーイノベーションの創出促進、地域活性化・産業競争力強化の研究開発の拠点形成のため、C-TECs 及び C-TEFs を開設。オープンラボ・研究室を備えた C-TECs と実験室・クリーンルームを備えた C-TEFs を隣接させた計画とし、基礎研究から社会実装までを一貫して研究する産学共創体制を確立。今後、東海機構プラットフォーム（仮称）を核に、キャンパス内の個々の共創の取組・施設を有機的に連携させる予定。



オープンラボ (C-TECs)



実験室 (C-TEFs)

⑤ 滋賀大学 彦根キャンパス

主なステークホルダー 滋賀県等地方公共団体、大学
共同利用機関、地方銀行、民間企業 等

地域、グローバルの視野をあわせもつ「データサイエンス・リーディング拠点」づくり

- **目的** … データサイエンス(DS)分野の先端研究・人材育成のための共創拠点
- **主な共創活動の施設等** … DS 棟、講堂、陵水会館 等
- **事業費負担** … 約 6 億円（大学負担、大学基金、施設整備費補助金、国立大学改革強化推進補助金）
- **検討体制** … 財務・施設マネジメント委員会 等
- **共創活動の場** … 学内の共同研究室、ラーニングコモンズ、学外の連携先施設 等
- **主な成果・効果** … 学生が企業の共同研究に参加し、高度なデータサイエンスエンジニアを実践的に育成し、未来創生に貢献できる人材を輩出。企業との共同研究等が高く評価され、産学連携が拡大。

■ 概要

滋賀大学は、Society 5.0 時代を牽引する DS 分野の日本初かつ全国的な教育研究拠点として、本格的な DS 研究者コミュニティを構築し、多くの企業、地域及び教育研究機関等と連携した最先端の研究や、開発した DS 教育プログラムによる日本初の本格的な DS 教育に取り組んでいる。順次進めてきた既存施設の再配分により学内全体が共創拠点となったキャンパスにおいて、ソフト及びハード面が一体となり、最先端 DS 研究の推進はもとより、地域のジュニア人材育成から世界で求められるデータサイエンティストの育成を行うなど、様々なイノベーションを生み出す「未来創生」に貢献するデータサイエンス・リーディング拠点を目指している。今後は、学外施設の利用等を含めて大学周辺にも共創拠点を展開する計画としている。



企業と学生の交流による
データサイエンティスト人材育成



地域連携によるジュニア人材育成

⑥ 大阪大学 箕面キャンパス

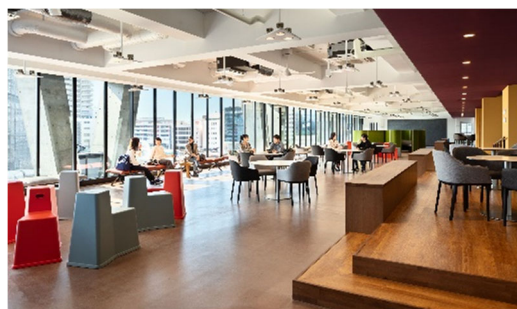
主なステークホルダー 箕面市、大阪船場繊維卸売商
団地協同組合、箕面船場まちづくり協議会

世界と地域をむすびまちづくりへの波及効果が期待される都市型のキャンパス

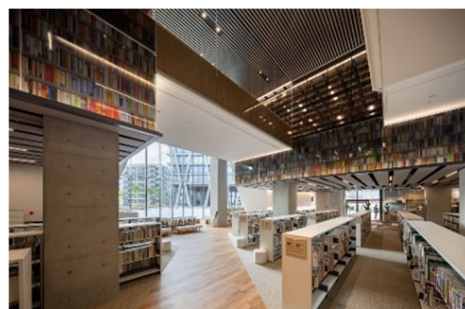
- 目的 … 世界と地域を結ぶ結節点・資産有効活用に資する共創拠点
- 主な共創活動 … ピロティ、広場、図書館・生涯学習センター
の施設等
- 事業費負担 … 施設整備費：約 120 億円（土地・建物の処分収入等を財源）
- 検討体制 … 移転準備委員会（学内構成員）、連絡協議会（箕面市との協
議）、移転プロジェクト会議（学内構成員）等
- 共創活動の場 … 学生交流スペースにおいて、空間が視覚的に連続するように配置し、アク
ティブな空間を演出
- 主な成果・効果 … 学生・留学生と教員、地域住民の交流の場を設けることにより、地域の
国際化や、商業・市民活動の活性化に貢献。大学と地方公共団体が
施設を共同利用することにより、資産の有効活用を図る。

■ 概要

「地域に生き世界に伸びる」という大阪大学の理念のもと、箕面新キャンパスを、世界の言語と言語を基底とする地域の文化や社会に関する研究の集積拠点にするとともに、グローバル人材を育成する場、また、外国人留学生に対する日本語・日本文化の教育を通して世界に向けて日本語・日本文化を発信する拠点、さらに、長年にわたり集積された外国語・外国学研究成果、いわば「世界知」ともいべきものを介する地域と世界の接点とすべく、令和5年度開業予定の箕面船場阪大駅前東側に、外国学研究講義棟と学生寮からなる新しいキャンパスを箕面市の図書館と文化施設、駅前広場等と一体的に整備した。また、箕面市が所有する市立図書館・生涯学習センターを大学が指定管理者として運営している。そのため図書館は、市の蔵書に加え、大阪大学外国学図書館の蔵書約60万冊を収めており、地域に開かれた公立図書館と学術研究を支える大学図書館の二つの機能を持っている。市民と共同で利用することで、資産の有効活用を図るとともに、市民と大学の交流が促進されている。



学生交流スペース（外国学研究講義棟）



箕面市立船場図書館（大阪大学外国学図書館）

カーボンニュートラルや Society 5.0 の実現に向けた実証実験の場としてのキャンパス

- **目的** … キャンパスを実証実験の場として活用している共創拠点。地方公共団体・企業・地域住民等との共創拠点として、産学連携や実証実験を推進。
- **主な共創活動の施設等** … ミライクリエ（広島大学フェニックス国際センター）
- **事業費負担** … 施設整備費：自己資金、地方公共団体からの寄付金
- **検討体制** … 広島大学スマートシティ共創コンソーシアム、Town & Gown 構想ステアリングコミティ
- **共創活動の場** … 施設内に「ローカル 5G」を導入し、ロボット、モビリティ、教育、災害予防等の研究に貢献
- **主な成果・効果** … 地方公共団体・企業と連携し、地域貢献を目指し、キャンパス全体を実証実験の場として活用することにより、新たな技術の社会実装の促進

.....

■ 概要

Society 5.0 やスマートシティの実現に関する包括連携協定を東広島市及び民間企業と締結するとともに、2030 年を目標とする「カーボンニュートラル×スマートキャンパス 5.0 宣言」を行った。カーボンニュートラルの実現には、最先端技術の開発や実用化、先行的な脱炭素モデルの創出などが必要であることから、広島大学東広島キャンパスを地方公共団体・企業・地域住民等との共創拠点として、周辺地域や地元企業等と連携して自動運転車両の実証実験等を実施することで、キャンパスを実証実験の場として有効に活用するとともに、イノベーション創出に向けた研究を推進している。

東広島市の支援も受けて整備したミライクリエは、海外からの研究者や留学生に対する居住空間を提供しており、学生同士の交流・議論の活性化に貢献している。また、同センターには、広島大学と東広島市がビジョンを共有し一帯となって連携を推進するための組織である「Town & Gown Office」が入居しており、イノベーションの創出や大学内外の多様な人々の交流・知識の循環を促進している。



多目的スペース（ミライクリエ）



電気自動車の自動運転の実証実験

⑧ 九州大学 伊都キャンパス

主なステークホルダー 福岡県等地方公共団体、九州大学発ベンチャー企業、企業等

歴史や自然などの豊かな環境と共生し未来社会を切り拓く実証実験キャンパス

- 目的 … キャンパス全体と地域が有機的に連携した共創拠点
- 主な共創活動の施設等 … 次世代燃料電池産学連携研究施設、共進化システムイノベーション施設等
- 事業費負担 … 施設整備費補助金、先端技術実証・評価設備整備費等補助金 等
- 検討体制 … 新キャンパス計画専門委員会、マスター・アーキテクト委員会 等
- 運営体制 … 総長、産学連携担当理事等で構成する評議委員会で、活動方針や戦略について審議
- 共創活動の場 … キャンパス全体を実証実験の場とし、次世代燃料電池の開発・早期実用化を可能とする産学連携拠点として整備
- 主な成果・効果 … 地域住民に向けた体験型の実験学習会や糸島市、福岡県と連携した九州の県内小学校へ出張講義等の地域連携を行っている。また、産学共同研究により、特許取得、製品化を実現。

■ 概要

九州大学は、伊都キャンパスを新たな社会モデルの実証フィールドとして位置づけ、スマートモビリティ、通信、エネルギーなどに関する実証実験を行い、Society 5.0 やスマートシティを見据えた社会実装の実現に向けた取組を行っている。世界最先端拠点として水素ステーション等を整備しており、水素の製造、貯蔵の技術、燃料電池の研究を行うとともに、国の国際戦略総合特区の事業として「スマート燃料電池社会実証」を進めており、再生可能エネルギーや燃料電池を組み合わせた次世代型のスマートシティのエネルギー供給網のモデル地区を形成している。



研究施設の中央に配置した交流スペース、ホール
(共進化システムイノベーション施設)



AI 運行バスの実証実験

⑨ 九州工業大学 戸畑キャンパス

主なステークホルダー 北九州市、地元企業、地域住民、KyuTech コラボ会員 等

旧体育館のリノベーションによる歴史の継承と新しい技術・交わりの形成拠点を展開するキャンパス

- 目的 … 産学官が一体となった共創モデル、イノベーションの創出等への貢献を目指す共創拠点
- 主な共創活動の施設等 … GYM LABO
- 事業費負担 … 約3.7億円（自己負担、国立大学イノベーション創出環境強化事業、寄付金、運営費交付金）
- 検討体制 … 理事を中心とし、学内に運営企画チーム及び建築デザインチームを形成、さらに教職員・学生が参画するWGを設置
- 運営体制 … GYM LABOの運営は民間企業に外部委託
- 共創活動の場 … アゴラを中心として建物全体をオープンな空間とし、什器を全て可動式とすることでフレキシブルな交わりを創出する空間としている
- 主な成果・効果 … 令和4年5月26日に運営を開始。産学官連携による新たな価値の創出（ICT活用の更なる高度化・DX推進）や、未来を思考し挑戦することができる人材の育成・輩出を目指している。

■ 概要

大学の創立110周年記念事業として、長い間親しまれてきた旧体育館の大胆なリノベーションを構想し、産学官の共創拠点となるコワーキングスペース「GYMLABO」を整備。「歴史の継承と新しい技術・交わりの形成拠点」をコンセプトに、大学の今を体現する学生と歴史を紡いできた卒業生との交わりを基軸に、新たな産学官共創を創出し、未来を思考・創造することができる人材育成に取り組む。また、「未来思考キャンパス」の核となり、学内の各施設で行われているステークホルダーとの共創活動を全学的に展開し、拡大することにより異業種間、異分野間のステークホルダーや学生等が交わる共創活動の拠点となるコワーキングスペースとして活用する。



内観全体図（GYMLABO）



ジムラボ・アゴラ（GYMLABO）

「地学一体」による人材育成を実現するための「学び」と「集い」を意図した
キャンパスづくり

- 目的 … 地域に密着した教育・人材育成
- 主な共創活動の施設等 … コミュニティホール、プロジェクトルーム、オフィススペース 等
- 事業費負担 … 施設整備費：約 10 億円（大学の自己負担）
- 検討体制 … 理事長以下の担当職員のほか、興味・関心がある教職員
- 運営体制 … 「めぶく。プラットフォーム前橋」に参画、産学連携基盤協議会を設置
- 共創活動の場 … 全面開放可能な折戸を設置し、室内での活動を可視化
- 主な成果・効果 … 地方公共団体、地元企業等とともに、地域課題を共有し、学内外での活動を共に行うことにより、次世代の地域社会を牽引する人材を育成

■ 概要

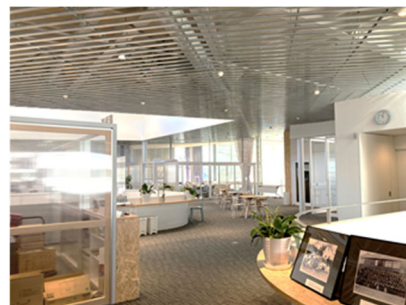
「地学一体」で次世代の地域社会をけん引する人材育成を目指した教育や、地域連携プラットフォームの構築など特色ある取組を実施するとともに、大学の理念を踏まえた commons（4号館）を中心に地域と繋がるキャンパス・施設を整備した。

平成 30 年 9 月に、市内の国公立全 8 大学と前橋市、前橋商工会議所が連携協定を締結するとともに、「めぶく。プラットフォーム前橋」を設立し、地域人材の育成・定着に向け、産官学が連携して重点事業等を展開している。令和 2 年度の就職実績は、県内就職が 80%以上を占めている。

駅から最も近く、通りに面した場所に新たに 5 号館（KYOAI GLOBAL GATEWAY）を整備し、キャンパスゲートとしてキャンパスネットワークと地域の結節点となり、大学をはじめ隣接する学園全体を地域・社会と繋げている。5 号館は全面開放可能な折戸を設置し、室内での活動を可視化することで、地域住民が大学に関心を持ち、大学を訪れ、大学と地域が一体となって活動を行う場として整備している。



キャンパスゲート（5号館）



多様なワークスペース

都市との共創をコンセプトにした地域・社会に開かれたキャンパスづくり

- 目的 … 地域貢献・社会貢献に資する共創拠点。「アジアのゲートウェイ」「都市共創」「地域・社会連携」をコンセプトにした地域・社会に開かれたキャンパス。
- 主な共創活動の施設等 … コンコース、分林記念館、R-AGORA 等
- 事業費負担 … 大学の自己負担
- 検討体制 … 総合企画部（キャンパス計画室）、財務部、外部コンサルタント企業
- 共創活動の場 … キャンパス各所に目的を持った学びの空間（コモンズ）を配置
- 主な成果・効果 … 学生や教職員、地域住民などが日常的に交流できるスペースを確保し、活動が可視化されることで刺激を受け、学生同士の交流や議論が活性化

■ 概要

「アジアのゲートウェイ」「都市共創」「地域・社会連携」という三つの教学コンセプトを掲げ、大阪いばらきキャンパスを開設し、市の防災公園や図書館、カフェ等が入る市民開放型施設を一体的に整備した。「学びの軸」と「市民交流の軸」を中心としたゾーニングが、「自律性を持ちながら、まちに開かれた場」をつくる効果を持っている。

また、市民、学生、教職員などがさまざまな立場、世代を超えて、出会い、つながり、コミュニティを創り、そこでの交流を通じて新たな気づきや学びを得ることを進めるコミュニティ共創プロジェクト（育てる里山プロジェクト、ガーデニングプロジェクト、まちライブラリープロジェクト）を実施している。これらの活動を含め、地域・社会と共同した多様な活動を通じて、相互の信頼関係を築き、地域・社会が抱える課題の解決、新たな価値の創造により、地域・社会の発展に貢献することを目指している。



コンコース



コモンズ(分林記念館)